

〈第1部〉13:00～ トークショー

司会：石田和外（静岡朝日テレビアナウンサー）

金子貴俊さん

「タカパパの家事と育児」



司会： みなさま、大変長らくお待たせいたしました。

本日は静岡県主催、「ふじさんっこ応援キャンペーン みんなで子育てシンポジウム」にご来場いただき、まことにありがとうございます。本日司会進行を担当いたします。静岡朝日テレビの石田和外と申します。実は私も現在子供が3人おりまして、小学校6年生の娘、小学校3年生の娘、そして2歳半の息子がおります。今まさに子育てに奮闘中の立場でございますので、今日は司会進行なんですが、参加者の一人としてひとつでも多くのことを吸収していけたらと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。さて、本日この「みんなで子育てシンポジウム」は県が取り組んでいる「ふじさんっこ応援キャンペーン」の一環として行われております。この「ふじさんっこ応援キャンペーン」では子育て中の家庭の孤独感や不安感を軽減し、子供を生み育てやすい社会を実現するため、また地域全体、社会全体で子育てを支える気運を作るために、本日のシンポジウムをはじめ、フォトコンテスト、テレビ、ラジオCMなど、さまざまな取り組みを実施しております。このみんなで子育てシンポジウムは、本日ここ静岡市民文化会館を皮切りに、浜松市、熱海市、富士市の合わせて4箇所で開催します。たくさんのゲストをお招きして、これからの子育てについて考えていきたいと思っております。では本日の開催に先立ちまして、静岡県健康福祉部長の石川俊一よりご挨拶申し上げます。

石川： みなさんこんにちは。ご紹介いただきました静岡県健康福祉部長の石川でございます。本日は、みんなで子育てシンポジウムに参加いただきまして、本当にありがとうございます。静岡県ではいま、子育てを応援するために一生懸命各種の政策を展開しておりまして、今日のこのシンポジウムもその一環でございます。「生んでよし、育ててよし」というふじのくにづくりを推進するために、川勝県知事以下、私ども健康福祉部、それから当然働くことも関係しますので経済産業部、また教育も関係しますので教育委員会、県下をあげて子育てを応援させていただいております。どうぞみなさんもこうした祭典、催し物に積極的にご参加いただきまして、いろんな情報交換をしていただければ幸いに存じます。今日は、多彩なプログラムの中で第一部トークショー、第二部でパネルディスカッションを予定しておりますので、最後までお付き合いいただきますようよろしくお願いいたします。

司会： それではさっそくゲストの金子貴俊さんをお呼びいたしましょう。金子さん、どうぞお越しください。

金子： どうもこんにちは。よろしくお願いいたします。

司会： 改めてご紹介いたします。ゲストの金子貴俊さんです。もう一度大きな拍手をお願いいたします。今日は「タカパパの家事と育児」という題なんです。その前にイクメンとキャッチフレーズがついております。イクメンタレントとしても現在活躍中ということですが、これはどんな気分なんですか？

金子： ありがたいと思います。気づいたらイクメンといわれるようになっていたの、イクメンと呼ばれるのに恥ずかしくないようにがんばろうと思いました。

司会： わかりました。それではまず金子さんのプロフィールを簡単にご紹介さ

せていただきます。金子さんは1978年生まれ、東京都のご出身で現在33歳。テレビドラマはもちろん、情報番組などでも活躍されていて、最近ではNHKの「あさイチ」、私もよく見えています。そして、NHK教育テレビの「ピットワールド」では、タカティーという名前でレギュラーで活躍されております。また、役者だけではなく、画家、写真家の立場でも、個展とか開かれて、本当に多彩な活躍をされております。さらに料理の方もお得意であるとか。

金子： そうですね、普通に、はい。いろいろ何でも作ります。

司会： この辺が、タカパパの家事にいろいろ絡んでくるかもしれませんが、お話よろしく願いいたします。俳優としては1997年にデビューされて、2001年、みなさんもよくご存知の大ヒット映画「ウォーターボーイズ」に出演されて、本当にいきいきしていてブレイクされました。実はこのウォーターボーイズというのは静岡県にゆかりがあるそうですね。

金子： そうですね、撮影は相良町のほうで撮影させていただきました。3ヶ月弱くらいいたんです。なのですごい慣れ親しんだ土地ですね。

司会： 2008年12月に第一子のそうら君というお子さんが生まれて、これをきっかけに妊娠のことをずいぶん勉強されて、その体験を本にまとめたのがこちらの『パパニティ～僕と奥ちゃんの10ヶ月～』で、この話は後ほど腰を落ち着けてお願いいたします。では早速お話を伺っていききたいので、どうぞお座りください。

金子： いやぁいいですね。たくさん子どもがいて、なんか癒されますね。

司会： まずは静岡のお話を。先程のウォーターボーイズの話が出ましたが、相良町でロケをされてたということで、どんな思い出がありますか？

金子： もう、本当みんなで合宿生活だったんです。よく合宿場のお風呂でシンクロ練習をやったりとか、あと町をいつも海パンで歩いていました(笑)。プールの練習所から泊まっている合宿所までそんな遠くなかったし、まだ新人ですのでバスとか出ないわけですよ。なので、いつもみんなで海パンで歩いて帰ってましたね。

司会： そうですか。静岡県にはどんなイメージがあります？

金子： やっぱり日本一の富士山ですよ。あとはお茶、わさび。うちの母方の先祖というか、親戚が静岡県の富士宮市にいます。おばあちゃんの実家が静岡だったので、小さい頃からちょくちょく来てました。七五三も静岡でやりました。

司会： そうなんです。富士山というと、富士山は登られたことはあるんですか？

金子： 小学校5年生のときに登りました。富士山登るつもりじゃなかったんですけど、父が夏休みにキャンプいこうって言って、夜中の3時くらいに西湖のキャンプ場ついたんです。父が、「そういえば富士山あるな、登ってみるか」って言い出し、何の準備もなしに夜中の3時半くらいから登り始めました。かなりきつかったです。

司会： それはそうでしょう。心の準備も体の準備も。

金子： でも父の強さをそこで見たりしたので、やっぱり自分も息子がもうちょっと大きくなったら登ってみたいです。

司会： いい思い出になるでしょうね。本筋とは離れるんですけど、2月23日が富士山の日ということで全国に発信してますので、是非富士山をPRしていた

だけとありがたいです。よろしく願いいたします。

さて、長男のそうら君なんですけど、「そうら」というのはどういう字を書くんですか。

金子： これは、颯爽の颯、立つに風って書いて、良い子の良ですね。で、「颯良」くん。

司会： ちなみにどんな思いをこめられたんですか？

金子： 一番最初、お腹の中にいるときから考えて決めちゃったんです。お腹にまず呼びかけたかったので。よく、お豆ちゃんとか、豆男とかいろいろあだ名つけたりするじゃないですか。でももう名前をちゃんとつけてあげたいなと思って、妊娠4ヶ月くらいに考えたんです。

まず画数を本とかネットで調べて、金子にあう字を探して、まずそうらの「颯」っていう字をうちの妻がいいって言い出して、僕もピンと来て「いいねこの爽やかな感じは」ってなりました。それで、颯っていう字にはどういう音があって、どういう字が合うかというので、今度言霊の先生にも聞いてみたんです。やはり、音の持つ柔らかさや強さでその子の印象で違うらしいんですよ。それは僕が龍馬っていったら、お前龍馬らしくないなって感じじゃないですか。僕の息子だから僕みたいな雰囲気も多少持って生まれてくると思うんで、ちょっと合いそうな名前はないかと考えて、「そうら」か「そうま」に絞りました。「そうま」はインドの神様で、人々に勇気と力を与えるような神様みたいな意味があったんです。「そうら」は、僕が太陽が大好きで、自然大好きなので、太陽のように明るく、みんなを温めて上げられるような子になってほしいなって思って、ソーラーパネルとかソーラーシステムとかのソーラーで「そうら」にしたんです。ソーラーにしたら明らかに、なんかいいじめられたりするかなって思って。でまあ、「そうら」だったら海外でも呼びやすいだろうし、で決めました。



司会： いま颯良くんは2歳と3ヶ月くらい。近況としてはどんな感じですか？

金子： いろんな言葉をしゃべるようになってきたので、本当に自分が話す言葉は気をつけないといけないと思いました。たまに、「俺さあ」って言っちゃうときがあるんですよ。家でも「僕」って言わなきゃだめだと気を使ってます。あとは、よく人の言葉を聞いてます。うちのママの言う言葉もよく聞いていて、大人みたいなこと言ったりとかします。

司会： うちもちょうど2歳と6ヶ月くらいなんです、男の子で。ちょうど同じ学年になるんですね。子どもの語学力ってすごいですよね。

金子： どんどん吸収していきますよね。新幹線の名前はすっかりですもん。目覚ましが新幹線です。いま。新幹線、新幹線、新幹線ってもう何十回も言って、最後目覚ましになって起きるっていう感じ。九州新幹線とか、あさま、こまち、とか全部覚えちゃ。だから新幹線以外のことを、もっと役立つことを覚えさせたいと思う。

司会： さて、こちらのパパニティという本、私も読ませていただいたんですけど、内容を見てびっくりしたんですよ。奥さんの妊娠がわかった時点からの

10ヶ月間の体験を主に書かれているんですね。出産はもちろん夫婦のものではあるんですけど、どうしても奥さん中心になるのに、この本を読むと本当にこの10ヶ月間に情熱を注いで積極的に男性が経験したことなんだと感じました。これはどういうきっかけで書かれて、どういう気持ちで出産に関わったんですか？

金子： まず、出産する準備とか、子育てに興味を持ち始めたのは、ワンちゃんを飼っていた経験が影響しています。ビジーちゃんっていうんですけど、2回妊娠して2回流産してしまい、3回目でやっと生まれました。流産したときはすごいショックでした。自分が何もできなかったことに、すごい苛立ちとか歯がゆい思いをして、どうしてあげたらそういう思いをしないですむのかというのがきっかけ。3回目にワンちゃんが妊娠したときにすごい勉強して、ちゃんと子ども生んでもらった。

結局、今っていろいろ医学が発達していても、100%ではないと思うんですよ。その100%にどうやったら近づけられるかっていったら、男の人って自分がお腹が大きくなるわけじゃないし、自分で自分の中に命があるわけじゃないんで、守れないこともあるじゃないですか。どうしたらいいかというと、やはり知識とできるだけ積極的に病院にいったりとか、あとは奥さんのケアをしてあげるっていうのが、安全な出産につながると思って勉強し始めました。

あとは、あんまりお父さん向けの本がなかったんです。ママの出産までの体験記ってのはあるんですけど、パパ目線でなにやっていいのかってあんまりなかったの、生意気なんですけどこういう本が少しでもあったほうが、世のお父さん方にはちょっとヒントになると思って書かせていただきました。

司会： この本を読ませていただいて、いくつか印象的なお話があったので、その辺りをうかがっていききたいと思います。まずはこの本の序盤に書いてある、「休みの日＝奥さんを楽しませてあげる日」について。男にとっては仕事があって、体を休める日になると、ちょっと自分の趣味のゴルフやりたいとかいろいろあると思うんですよ。その中で、これはどんな思いなんですか？

金子： 女性は、妊娠中は特にそうですけど、出産してから家事は毎日のことじゃないですか。子どもが生まれるとさらに育児もついてくるので、自由な時間ってまったく普段ないと思うんですよ。男性の場合は、仕事のジャンルによりますが、僕の場合は、仕事でいろんなところに行つて、いろんなもの食べたり、いろんな人に出会ったり、よく刺激をもらってるので、気分的にはリフレッシュする場が仕事場にあるんです。でも奥さんってどうなんだろうと考えたときに、近所にすごい仲のいい友達がいったりとか、悩みを話せる環境があったらいいんですけど、そうじゃなかった場合やっぱり一番近くにいる旦那さんがケアしてあげるしかないと思う。そういう意味で、休みの日は普段奥さんに全部任せてる分、ケアしてあげようということ。

その休みの日に奥さんが少しでも楽しんでもらえたら、毎日の育児や家事にいい形に返ってくると思うんですよ。今日は大変かもしれないけどキャラ弁作ってみようとか、ちょっと手の込んだことをやる気持ちの余裕が出てきたりとかすると思う。そうすると僕も家に帰ってきたときにビールが飲みやすかったり(笑)、うまくそういう関係が循環していくような気がします。

司会： そういう流れの中での話になりますが、もうひとつ印象に残った言葉が、「毎日の積み重ねで気持ちよく生活できるなら、今ちょっとでも頑張ろう」これが出てくる、まさに今の同じ流れの中の言葉ですね。どうしてもちょっと面倒くさいとか、洗い物をやれば喜ぶかもしれないけど、任しちゃおうかなとか、家にいると正直そういうことが私もあります。そこでこの言葉を見ると、あっそうかという気がするんですよ。